

第三者評価結果 公表シート

(このシートに書かれている内容は、そのまま富山県福祉情報システムにおいて公表されます。)

事業所名：富山市立老田保育所

第三者評価機関名：社会福祉法人富山県社会福祉協議会

評価確定年月日：平成 29 年 3 月 17 日

1. 概評

◇ 特に評価の高い点

1. 地域とつながる『花育活動』

春は一面のチューリップ、夏は野菜やひまわり、色とりどりの草花に囲まれた自然いっぱいの保育所である。富山フラワーネットワークの出前授業にて、子どもたちは、講師の指導でたくさんのチューリップの球根を植え付け、春を心待ちにしている。また、地域のボランティアグリーンキーパーが中心となり、子どもや保護者、職員で花壇や花苗の世話を力を注いでいる。さらに花壇で育った植物を使用しフラワーアレンジメントを楽しんだり、採れた種を地域の方に配布したりしている。草花の成長を五感いっぱいを感じながら、子どもたちが豊かな心に育つようにと願いを込めたこれらの花育活動は、かかわってくださるみなさんの子ども達と花壇への深い愛情を感じる。花壇コンクールでは何度も賞を受け、地域住民にとっても憩いの場であり、花の名所になっている。

2. 積極的な社会資源の活用で多様な活動を提供

子どもたちが楽しみにしているすもう交流活動、野菜収穫体験、読み聞かせ、お茶指導、花育などすべてが地域のボランティア支援による活動である。青少年自然の家での自然体験、サッカー教室、小学生及び介護事業所利用者との交流活動など、地域の潜在能力（ボランティア）・社会資源を活かした活動を実施し、また、すもうという伝統に楽しみながら触れ、さまざまな人・世代と交流し、社会性の基盤づくりを実践している。子ども達がのびやかで穏やかに過ごす保育現場の様子から、これらの取り組みの成果が見受けられる。

◇ 改善を求められる点

1. 中・長期及び単年度事業計画書の策定

富山市は、子ども・子育て支援法に基づき「富山市子ども・子育て支援事業計画（5か年）」を平成27年3月に策定している。子ども・子育てのための支援を、総合的・一体的に推進するための計画として位置づけられ、この中に保育などのサービスも組み込まれている。これらに基づいた保育所独自の中・長期及び単年度の事業計画は作成されていない。保育所をめぐる制度が変化し、保護者ニーズも多様化している。

少子化の影響の下で、中・長期の展望を見据え、毎年度の事業計画に地域及び保護者、職員の意見を反映させ具体化して、関係者に事業計画を示し、理解を得ることでより一丸となって事業に取り組まれることに期待したい。

2、職員における自己評価の実施と保育実践の振り返り

自己評価の趣旨は、自らの保育実践を振り返り、気づきや改善、専門性の向上を図るためである。実践の振り返りとして「自らの保育を捉える視点」と、「子どもの育ちを捉える視点」を取り入れた自己評価を定期的に行い、その結果を職員間で共有し、検討を通して保育のよさや強み、また課題の発見や確認につなげ、さらなる保育の質の向上が図られることに期待したい。

3、遊戯室の広さ・保護者の駐車場の難点

遊戯室が狭く、発表会など行事開催時は保護者からも不満が出ている。ステージを設置する分、遊戯室が更に狭くなり、観覧席の誘導を行うなど保育所もいろいろ工夫を重ねている。子どもたちものびのびと活動ができるような遊戯室が望まれる。また、駐車場が狭いため、送迎時、自家用車を利用する保護者は道路に駐車するのでとても危険である。駐車したまま園庭や遊具で遊んでおり、早急に保護者会を交えてルール作りを行い、それらを説明し、理解や周知を図り、安全な送迎環境の整備に期待したい。

4、ケース会議録の作成

職員会議・クラス会議などでは、気になる子については、話し合われているが、個別の記録簿がない。質の向上のためにも理解、共有、課題、改善などケース会議録として独立したものが作成、保管されることが望まれる。

2. 大項目毎の特徴

1 運営管理

- ・今年度、地域の会合へ所長が参加した際、パワーポイントを活用した資料で、保育所の理念、目標、行事の紹介を行い、地域の方たちの理解を深める働きかけを行なった。また、保育所だよりを毎月小学校及び地区センターへ配布し、掲示のご協力をいただき、継続して多くの人の目に触れるよう工夫している。
- ・スキル向上を目指し、職員が適切な研修を受講できるよう年間計画が策定されている。さらに、保育士会の自主研修へ参加し、今年度は「保育環境評価スケール」に着目して学びの機会を持った。職員会議などで報告し、記録としても回覧することで全ての職員に周知を図っている。
- ・保護者アンケート結果の回答率からも、保育所からの理念及び方針、情報提供が詳しくされていることが伺えた。保育所だよりでは、行事が紹介されており、その行事名の横に、行事に関する内容の詳細や持ち物、注意点などが丁寧に記載され、読み手も活動のイメージが広がり、早めに準備が出来るよう配慮が見られる。
- ・保護者アンケートでも建設的な意見や要望がたくさん寄せられている。普段の行事アンケートや連絡帳などからの意見や要望も、個人に特定されるものは別として、保育所

に寄せられているものは、できるだけみなさんへ情報を提供していくことで、職員と保護者、地域住民がさらに風通しのよい関係となり、活発な保育所運営に繋がることに期待したい。

- ・けがなどについては、降園後に問い合わせなどがあることも多い。その際、正確な情報を伝達するため、『けがの報告（日時・児童名・状況・処置・保護者への案内を記載）』という書類を、担当した保育士が作成・保管し、後ほど別の職員が対応する場合も正しく伝達できるよう工夫している。

- ・保護者アンケートにおいて、職員の挨拶や対応が良いという意見が寄せられている。また、職員のヒアリングからは、チームワークの良さ、相談や指導を受ける体制が構築されており、安心して仕事ができるとの声が聞かれた。所長は、職員一人一人の長所を保育に生かし、さらなる質の向上が図れるよう調整役として力を発揮している。

2 地域の住民や関係機関との連携

- ・所長をはじめ職員は、社会資源の積極的活用や地域のボランティアなどと共に子どもを育てる意識を強く持ち、多くの交流行事や体験活動を実践している。所長は、地域のニーズでもある「花育活動」を継続し、地域密着型保育所の運営にリーダーシップを発揮している。

3 子どもの発達援助

- ・アレルギーを持つ子どもに対して保護者と調理員、担任が月1回、献立の成分表を見て懇談会を行い、毎日の食事においても6名の職員の確認のもと、誤食の防止に努めている。

- ・保育室の限られたスペースで小さなコーナーや遊具、あそびの素材が効率よく整理されている。

- ・季節感あふれる作品や職員が工夫した展示物が保育所らしく展示されており、職員が子どもの作品を大切にしている様子が見受けられた。

- ・職員はお互いに日々の態度や声の大きさなど確認しあっており、職員の子どもに対する言葉かけは穏やかでやさしく、子どもたちも落ち着いて保育所生活を送っている。

- ・地域の人との交流から花壇、野菜作りを通し、自然に親しむ機会が多く、子どもたちの心身の成長を育んでいる。

- ・4、5歳児を中心に保育所全体の当番活動を日常的に行っている。1月は、郵便屋さん当番が子どもたちの書いたはがきを配達するなど、あそびの中から社会的なルールを学べる楽しい活動をしている。

4 子育て支援

- ・個別懇談会、クラス懇談会を開催しており、日常的には、連絡帳の活用、送迎時など気軽に会話できるなど、保護者からも信頼されている。外国人の保護者には、言葉の問題、習慣の違いなどから、情報提供やコミュニケーションについては十分な配慮が望まれる。

・親子サークルは年間30回実施し充実しているが、更なるニーズの把握とそれらを保育に反映させることを、保育所自ら今後の課題としている。

3. 各小項目にかかる第三者評価結果(ABCD評価結果) (別紙)

4. 第三者評価結果に対する事業者のコメント

第三者評価を受けるにあたり、職員一人一人が、自分の保育を一から見直しました。今まで当たり前のように思いしてきたことが、本当にこれでよかったのか、自分の保育を振り返る良い機会となり、感謝しております。

老田保育所は、地域に愛される保育所を目指し、花育や社会資源を活用し、地域とのつながりを大切にしてきました。今回、そのことを高く評価していただいたことを大変うれしく思うとともに、今後も継続し、さらなる向上を目指していこうと思います。

また、改善を求められた点については、ご指導いただいたことを参考にして、少しでも実現可能となるよう職員一同努力し、保育の質の向上へとつなげていきたいと思っています。

最後に、今回の第三者評価受審に際し、ご尽力いただいた関係機関の方々や、利用者アンケート等に忙しい中、ご協力いただいた保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

別紙 各小項目にかかる第三者評価結果（A B C D評価結果）

大項目		
中項目	小項目	評価

1 運営管理		
(1) 基本方針	①理念及び基本方針が明文化され、職員、保護者、関係者に周知するための取り組みが行われている。	A
(2) 中・長期計画	①中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	B
	②中・長期計画が適切に策定されている。	B
(3) 組織運営	①保育の質の向上や改善のための取り組みを、定期的な自己評価など、職員参加により行っている。	B
	②職員の研修ニーズを把握し、職員に適切な研修機会を確保している。	A
(4) 守秘義務の遵守	①守秘義務の遵守を周知している。	A
(5) 情報提供・保護者の意見の反映	①情報提供に当たって、わかりやすく伝える工夫や配慮を行っている。	A
	②保育の実施に当たり、保護者から意見を聞くための取り組みを行い、その意向に配慮している。	A
	③保育サービスの継続性に配慮した対応が行われている。	A
(6) 安全・衛生管理	①事故や災害に適切に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されているとともに、事故防止のための具体的な取り組みを行っている。	A
	②調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている。	A
(7) 人事管理	①人事管理の体制が整備されている。	A
(8) 経営管理	①予算管理の体制が整備されている。	B
(9) 管理者の責任とリーダーシップ	①管理者の責任が明確にされているとともに、リーダーシップが発揮されている。	A

2 地域の住民や関係機関との連携		
(1) 地域の住民や関係機関・団体との連携	①医療機関・児童相談所などとの相談・連携体制を整えるとともに、その他地域の関係機関に関する情報を収集している。	A
	②小学校、地域団体、地域住民などとの連携、交流が図られている。	A

(2)実習・ボランティア・保育体験	①実習生、ボランティア、保育体験などの受け入れ体制が整っている。	A
-------------------	----------------------------------	---

3 子どもの発達援助		
(1)発達援助の基本	①保育計画が、保育の基本方針に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して作成されている。	B
	②指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき、指導計画を見直している。	A
	③一人一人の子どもの発達状況に配慮した指導計画となっている。	A
	④一人一人の子どもの発達状況、保育目標、生活状況についての記録があり、それぞれの子どもに関係する全職員に周知されている。	A
	⑤一人一人の子どもの発達状況、保育目標、保育の実際について話し合うためのケース会議を定期的かつ必要に応じて開催している。	B
(2)健康管理・食事	①登園時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり子ども一人一人の健康状態に応じて実施している。	A
	②健康診断(歯科健診含む)の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている。	A
	③感染症への対応については、マニュアルなどがあり、発生の状況を必要に応じて保護者に連絡している。	A
	④専門医から指示があった場合、アレルギー疾患をもつ子どもの状況に応じて適切な対応を行っている。	A
	⑤日々の献立を保護者に示すとともに、必要に応じて、子どもの喫食状況を保護者に知らせている。	A
	⑥食事を楽しむことができる工夫を保育士がしている。	B
	⑦食事を楽しむことができる工夫を栄養士、調理員などがしている。	A
(3)保育環境	①子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	A
	②生活の場に相応しい環境とする取り組みを行っている。	B
(4)保育内容	①子ども一人一人への理解を深め、受容しようと努めている。	A
	②基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人一人の子どもの状況に応じて対応している。	A
	③子どもが自発的に活動できる環境が整備されている。	A
	④身近な自然や社会と関われるような取り組みがされている。	A
	⑤さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている。	A

	⑥遊びや生活を通じて、人間関係が育つよう配慮している。	A
	⑦子どもの人権に十分配慮するとともに、互いに尊重する心を育てるよう配慮している。	A
	⑧性差への先入観による固定的な観念や役割分担意識を植え付けないよう配慮している。	A
	⑨乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	A
	⑩長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	A
	⑪障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる。	B

4 子育て支援		
(1) 入所児童の保護者の育児支援	①子どもの発達や育児などについて、懇談会や保育参加など保護者と共通理解を得るための機会を設けるとともに、一人一人の保護者と日常的な情報交換や個別面談などを行っている。	A
	②虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、児童相談所などの関係機関に照会・通告を行う体制が整っている。	A
(2) 多様な子育てニーズへの対応	①多様な子育てニーズを把握するための取り組みを行い、それを活動や事業に反映している。	B
(3) 地域の子育て支援	①育児相談など地域の子育て家庭を対象とする子育て支援のための取り組みを行っている。	B
	②一時保育は、一人一人の子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている。	—